

日文現代文翻譯

羅城門登上層見死人盜人語第十八 現代語訳

今は昔、摂津国のあたりから、盗みを働こうと京に上って来た男が、まだ日が暮れないので、羅城門の下に立ち隠れていたが、朱雀大路の方はまだ人の行き来が激しい。そこで、人通りが静まるまでと思い、門の下に立って時刻を待っていると、山城の方から大勢の人がやってくる声がしたので、それに見られまいと門の二階にそっとよじのぼった。見れば、ぼんやりと灯がともっている。

盗人は、おかしいことだと思い、連子窓からのぞいてみると、若い女が死んで横たわっている。その枕元に灯をともし、ひどく年老いた白髪の老婆がそこにすわって、死人の髪を手荒く抜き取っているのだった。

盗人はこの様子を見て、どうにも合点がいかず、もしやこれは鬼ではなからうかと思ひ、ぞっとしたが、あるいはすでに死んだ者かも知れぬ。ひとつおどしてためしてみようと気を取り直し、そっと戸をあけ刀を抜いて、「こいつめ、こいつめ」と叫んで走り掛かると、老婆はあわてふためき、手をすり合わせて狼狽する。そこで、盗人が、「婆あ、お前はいったい何者だ。何をしているのだ」ときくと、老婆は、「じつはこの方はわたしの主人でいらっしやいますが、お亡くなりになって、葬いをしてくれる人もおりませんので、こうしてここにお置きしているのです。そのおぐしが丈に余るほど長いので、それを抜き取りXにしようと思って抜いているのです。どうぞ、お助けください」と言う。それを聞いて、盗人は死人の着ていた着物と老婆の着衣、それに抜き取ってあった髪の毛まで奪い取って、二階からかけ降り、どことも知れず逃げ去った。

ところで、この二階には死人の骸骨がたくさんころがっていた。葬式などできない死人をこの門の上に捨てて置いたのである。

このことはその盗人が人に語ったのを聞き継いで、こう語り伝えているということだ。

引用自小學館[日本古典文學全集]

中文翻譯

《今昔物語集》(羅城門登上層見死人盜人語第十八 = らせいものうわこしに登りてしにんを見る盗人のこと第十八)

目的: 上京偷竊

時間: 下午時分

從前，有位來自攝津國附近的男子，來到京城打算偷竊。由於太陽尚未下山，因此暫時躲在羅城門下。但是，朱雀大道一帶依舊人來人往，所以男子預定等到人潮退去，而佇立城門下方。此時，山城一帶傳來一陣人群到來的吵雜聲，於是男子輕輕地爬上城門二樓，以掩人耳目。上樓一看，一盞昏暗燈火點燃其中。

盜賊感到怪異而從[連子窗]中窺看，結果發現一具年輕女屍倒臥在地，頭顱附近點著燈火，一位年邁白髮老嫗坐在其中，用力拔著死人的頭髮。

盜賊見此情景，心中充滿疑惑。心想：「此若為鬼怪」，實令人心驚膽跳，但若為死人(死靈)則姑且放心一探究竟，因此輕輕推開門板，拔刀吶喊：「納命來」，趨身而去，老嫗慌張情急之下，還手以對。盜賊出口一問：「老婆何許人也？為何而來？」，老嫗回應：「此乃我家主人，身後無人安葬，故安置於此。因其頭髮甚長，故欲拔取以為假髮，尚請您能幫忙拔取」。盜賊聞此，隨即奪取死人與老嫗身著衣物及已拔下頭髮，並且快速下樓，逃逸而去。

話說此羅城門上，積滿死人屍骸。死後不得安葬者多置於此城門之上。據悉，此故事乃是盜賊告知於人，聽聞者代代相傳，轉誦至今。

(楊錦昌譯)

今昔物語集(古文)

羅城門登上層見死人盗人語第十八

いまはむかし つ くにほとり ぬすみ ため きやう のぼり をのこ ひ いま あか
今昔、摂津ノ国辺ヨリ盗セムガ為ニ京ニ上ケル男ノ、日ノ未ダ明カ
リケレバ、羅城門ノ下ニ立隠レテ立テリケルニ、朱雀ノ方ニ人重ク行ケレ
バ、人ノ静マルマデト思テ、門ノ下ニ待立テリケルニ、山城ノ方ヨリ人共ノ
あまたき おと そ み おもひ もん うはこし やは かか のぼり
数来タル音ノシケレバ、其レニ不見エジト思テ、門ノ上層ニ和ラ搔ツリ登
タリケルニ、見レバ、火鬚ニ然シタリ。

ぬすびと あやし おもひ れんじ のぞき わか をむな しに ふし あ そ
盗人、「怪」ト思テ、連子ヨリ臨ケレバ、若キ女ノ死テ臥タル有リ。其
まくらがみ ひ とも としみじ おい おうな しらが しる そ しにん まくらがみ あ
ノ枕上ニ火ヲ燃シテ、年極ク老タル姫ノ白髪白キガ、其ノ死人ノ枕上ニ居
テ、死人ノ髪ヲカナグリ抜き取り也ケリ。

ぬすびとこ み こころ え こ も おに あ おもひ おそろし
盗人此レヲ見ルニ、心モ不得ネバ、「此レハ若シ鬼ニヤ有ラム」ト思テ怖
ケレドモ、「若シ死人ニテモゾ有ル。恐シテ試ム」ト思テ、和ラ戸ヲ開テ、
かたな ぬき おのれ おのれ いひ はし より おうなて まど て すり
刀ヲ抜テ、「己ハ、己ハ」ト云テ走り寄ケレバ、姫手迷ヒヲシテ、手ヲ摺テ
まど ぬすびと こ なん おうな かく む とひ おうな おのれ
迷ヘバ、盗人、「此ハ何ゾノ姫ノ此ハシ居タルゾ」ト問ケレバ、姫、「己ガ
あるじ おはし ひと うせたま あつか ひと な かく おきたてまつり なり
主ニテ御マシツル人ノ失給ヘルヲ、繚フ人ノ無ケレバ、此テ置奉タル也。

そ おほむかみ たけ あまり なが それ ぬきとり かつら ぬ なり たす たま
其ノ御髪ノ長ニ余テ長ケレバ、其ヲ抜取テ鬘ニセムトテ抜ク也。助ケ給へ」
いひ ぬすびと しにん き きぬ おうな き きぬ ぬきとり かみ ぼひとり
ト云ケレバ、盗人、死人ノ着タル衣ト姫ノ着タル衣ト抜取テアル髪トヲ奪取
おりはしり にげ さり
テ、下走テ逃テ去ニケリ。

さ そ うへ こし しにん がいこつ おほ しに ひと ほうぶり えせぬ
然テ其ノ上ノ層ニハ死人ノ骸骨ゾ多カリケル。死タル人ノ葬ナド否不為ヲ

バ、此ノ門ノ上ニゾ置ケル。

此ノ事ハ其ノ盗人ノ人ニ語ケルヲ聞繼テ此ク語り傳ヘタルトヤ。

馬淵和夫等校注・訳『今昔物語集』（日本古典文学全集）、小学館、1971年7月～1974年7月